

松下幸之助記念志財団 研究助成  
研究報告

(MS Word)

## 【氏名】

齋藤智美

## 【所属】(助成決定時)

東京大学大学院農学生命科学研究科

## 【研究題目】

自然を守ることで人は心理的・社会的に豊かになるのか？関係価値概念を用いた分析

## 【氏名】

齋藤智美

## 【所属】(助成決定時)

東京大学大学院農学生命科学研究科

## 【研究題目】

自然を守ることで人は心理的・社会的に豊かになるのか？関係価値概念を用いた分析

## 【研究の目的】(400字程度)

本研究では、自然の関係価値の心理測定尺度を作成する。自然の関係価値(以下関係価値)とは、人々が生活の中で享受している自然の恩恵のうち、自然への愛着や自然環境をきっかけとして育まれる社会関係などの自然の社会的・文化的な恩恵を、自然と人間の関係性の上で成り立つ代替不可能な恩恵と捉える新たな自然の価値概念である。有用性だけでは評価できない自然の恩恵は、人々の心身の豊かさと自然環境保全の両立のために不可欠であり、関係価値を用いた評価の重要性は認識され、注目されている。しかし、先行してきた理論研究や質的研究を裏付ける定量評価は十分に行われておらず、定量的な測定方法や尺度も確立されていない。尺度の作成には、様々な地域を対象にした調査が必要である。本研究では、複数地域で行った定量調査の結果を用い、関係価値の心理測定尺度の作成を試みる。本報告書では、岩手県全域を対象にした調査結果について報告する。

## 【研究の内容・方法】(800字程度)

## 内容・仮説

関係価値は政策、社会的な規範(Chan et al., 2016)、また環境教育などを通じた知識の獲得や経験によって形成・変化すると考えられ、様々な地域や集団を対象に研究が進んでいる(Britto dos Santos & Gould, 2018; Kleespies & Dierkes, 2020; Skubel et al., 2019; Uehara et al., 2018)。Cundill et al.(2017)は、居住地が自然保護地区に指定されたことで転居した人々が、関係価値の喪失・変化を挙げることを明らかにした。また、類似概念の研究では、自然災害も自然と人間の関係性に大きな影響を与えることが指摘されてきた(Ford et al., 2019; Muhar et al., 2018; Rawluk et al., 2017)。これらより、本研究では、自然災害による転居によって関係価値は喪失、もしくは低下すると仮定した。

## 対象地・対象者

自然災害による大規模な転居があった東日本大震災で、一部地域が災害居住地域に指定された岩手県を対象とした。転居経験者と転居未経験者の評価を調査するため、岩手県全域の成人男女を対象とした。

## 方法

現在の居住地周辺での自然への関係価値の評価を、先行研究(Saito et al., 2022)で作成した5段階評価アンケート調査票を用いて収集した。調査開始ページに大学の研究目的の調査であること、データは匿名で回答者の特定はできないこと、自然災害経験に関する設問のあることを記し、回答が難しい場合は中断してもらうよう

にした。

アンケートは、2022年2月25日–28日の3日間、株式会社インテージ社の登録ユーザーに配布した。市町村人口、年齢、性別によって配布数が偏らないよう配布した。収集した関係価値評価は探索的因子分析でサブカテゴリに縮約し、多母集団分析で仮説を検証した。

## 【結論・考察】(400字程度)

### サンプルの傾向

最終的な収集回答数は3760、男性48%( $n=1,815$ )、平均年齢51.4歳( $SD=11.6$ )、平均居住年数は25.6年( $SD=18.0$ )だった。東日本大震災を契機に転居した回答者は288人、災害居住地域指定もしくは自宅決壊での転居はうち61%( $n=175$ )だった。転居前の住所は、岩手県以外( $n=61$ )、県内の別の市区町村( $n=82$ )、同じ市区町村の違う地域( $n=83$ )、現在と同地域( $n=60$ )だった。

### 仮説の検証

関係価値は自然への愛着、保全への社会的な責任、利活用優先の3つのサブカテゴリに縮約された。3つの評価は、災害居住地域指定もしくは自宅決壊で転居した人、自主的に転居した人、転居しなかった人の間で差がなかった。回答者が転居後、転居先の自然環境の関係価値の評価するようになった可能性を示唆する。本結果は、価値評価の変化の過程について実証的なエビデンスを提供できたと考える。今後、自然の利用頻度や地域分布などを考慮し、さらに分析を進める。

### 参考文献

- Britto dos Santos, N., & Gould, R. K. (2018). Can relational values be developed and changed? Investigating relational values in the environmental education literature. *Current Opinion in Environmental Sustainability*, 35, 124–131. <https://doi.org/10.1016/j.cosust.2018.10.019>
- Chan, K. M. A., Balvanera, P., Benessaiah, K., Chapman, M., Díaz, S., Gómez-Baggethun, E., Gould, R., Hannahs, N., Jax, K., Klain, S., Luck, G. W., Martín-López, B., Muraca, B., Norton, B., Ott, K., Pascual, U., Satterfield, T., Tadaki, M., Taggart, J., & Turner, N. (2016). Opinion: Why protect nature? Rethinking values and the environment. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 113(6), 1462–1465. <https://doi.org/10.1073/pnas.1525002113>
- Ford, R. M., Rawluk, A., & Williams, K. J. H. (2019). Managing values in disaster planning: Current strategies, challenges and opportunities for incorporating values of the public. *Land Use Policy*, 81, 131–142. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2018.10.029>
- Kleespies, M. W., & Dierkes, P. W. (2020). Impact of biological education and gender on students' connection to nature and relational values. *PLOS ONE*, 15(11), e0242004. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0242004>
- Muhar, A., Raymond, C. M., van den Born, R. J. G., Bauer, N., Böck, K., Braitto, M., Buijs, A., Flint, C., de Groot, W. T., Ives, C. D., Mitrofanenko, T., Plieninger, T., Tucker, C., & van Riper, C. J. (2018). A model integrating social-cultural concepts of nature into frameworks of interaction between social and natural systems. *Journal of Environmental Planning and Management*, 61(5–6), 756–777. <https://doi.org/10.1080/09640568.2017.1327424>
- Rawluk, A., Ford, R. M., Neolaka, F. L., & Williams, K. J. (2017). Public values for integration in natural disaster management and planning: A case study from Victoria, Australia. *Journal of Environmental Management*, 185, 11–20. <https://doi.org/10.1016/j.jenvman.2016.10.052>
- Saito, T., Hashimoto, S., & Basu, M. (2022). Measuring relational values: Do people in Greater Tokyo appreciate place-based nature and general nature differently? *Sustainability Science*, 17(3), 837–848. <https://doi.org/10.1007/s11625-020-00898-4>
- Skubel, R. A., Shriver-Rice, M., & Maranto, G. M. (2019). Introducing Relational Values as a Tool for Shark Conservation, Science, and Management. *Frontiers in Marine Science*, 6. <https://doi.org/10.3389/fmars.2019.00053>
- Uehara, T., Sakurai, R., & Tsuge, T. (2018). Cultivating relational values and sustaining socio-ecological production landscapes through ocean literacy: A study on Satoumi. *Environment, Development and Sustainability*, 22(2), 1599–1616. <https://doi.org/10.1007/s10668-018-0226-8>
- Yamazaki, T., Iida, A., Hino, K., Murayama, A., Hiroi, U., Terada, T., Koizumi, H., & Yokohari, M. (2021). Use of Urban Green Spaces in the Context of Lifestyle Changes during the COVID-19 Pandemic in Tokyo. *Sustainability*, 13(17), Article 17. <https://doi.org/10.3390/su13179817>